

風の問題を扱ふ。全元起本卷五

陰陽交、陽汗者陰勝也。熱者陽盛也。陽盛則汗出。則熱衰。今出而熱不衰者、是陽邪盛而復陰起。

兩者相交、故名陰陽交也。

森「陰陽交者、交是交代之文、言陽熱之邪、內入七深、陰血之汗外泄太甚、故名曰陰陽交也」本表表にあるべき熱の深く作用

〔工〕陰陽交

評熱病論篇第三十三

チヨシ
すなはち、たゞ
まじ

黃帝問曰有病溫者。汗出輒復熱而脈躁疾不為汗

と評している。という陰陽の交代

陰陽交、
初起倉公伝

衰狂言不能食病名為何。岐伯對曰病名陰陽交。交者

死也。帝曰願聞其說。岐伯曰人所以汗出者皆在於穀穀

骨肉の探討
その事、

在於精。今邪氣交爭於骨肉而得汗者、是邪卻而精

勝也。精勝則當能食而不復熱。復熱者邪氣也。汗者

汗は精液の出すもの

精氣也。今汗出而輒復熱者是邪勝也。不能食者

精衰憊也。病而留者其壽可立而傾也。且夫熱論曰

「本、熱論」
「熱病論」
「陰脈之極也」

汗出而脈尚躁盛者死。今脈不與汗相應此不勝其病也

其死明矣。狂言者是失志失志者死。今見三死不見一生

雖愈必死也。

①②③

風厥

帝曰有病身熱汗出煩滿煩滿不為汗解此為何病
岐伯曰汗出而身熱者風也汗出而煩滿不解者厥也病

卒にめつに
あけふつに

表の少陰の
候も上にあがる

四

帝曰

強上果視

強上果視

強上果視

強上果視

強上果視

追之奈何岐伯曰表裏刺之飲之服湯

帝曰勞風為病何如岐伯曰勞風法在肺下其為病也

使人強上果視唾出若涕惡風而振寒此為勞風之病

帝曰追之奈何岐伯曰以救俛仰巨陽引精者三日中年者

五日不精者七日欬出青黃涕其狀如膿大如彈丸從口中

若鼻中出不出則傷肺傷肺死也

則

肺膿肺肺壞祖

帝曰有病腎風者面腫^{ぼうたみ}然^{なり}雍^{おひ}害^が於^こ言^を可^べ刺^す不^た岐伯^{きへく}
 曰^い虛^そ當^た刺^す不^た當^た刺^す而^{して}刺^す後^{のち}五^{いつ}日^{にち}其^{その}氣^き也^{なり}至^{いた}帝^{てい}曰^い其^{その}至^{いた}何^{なん}如^{ごと}
 岐伯^{きへく}曰^い至^{いた}也^{なり}少^{せう}氣^き時^{とき}熱^{ねつ}時^{とき}熱^{ねつ}從^{より}胃^い背^へ上^{うへ}至^{いた}頭^{かぶ}汗^{あせ}出^で手^て熱^{ねつ}
 口^{くち}乾^{かん}苦^く渴^{かつ}小^{せう}便^{べん}黃^{わう}目^め下^{した}腫^{しゅ}腹^{ふく}中^{ちゆう}鳴^{めい}身^み重^{じゆう}難^{なん}以^{もつ}行^ゆ月^{げつ}事^じ
 不^た來^{きた}煩^{わん}而^{して}不^た能^で食^く不^た能^で正^{ただ}偃^{えん}正^{ただ}偃^{えん}則^{すなは}效^{けう}病^{びやう}名^な曰^い風^{ふう}水^{すい}論^{ろん}在^に
 刺^し法^{ぽう}中^{ちゆう}帝^{てい}曰^い願^{ねん}聞^{もん}其^{その}說^{せつ}岐伯^{きへく}曰^い邪^{じゃ}之^の所^{ところ}湊^{あつ}其^{その}氣^き也^{なり}虛^そ
 陰^{いん}虛^そ者^{なり}陽^{やう}也^{なり}湊^{あつ}之^の故^{ゆゑ}少^{せう}氣^き時^{とき}熱^{ねつ}而^{して}汗^{あせ}出^で也^{なり}小^{せう}便^{べん}黃^{わう}者^{なり}
 少^{せう}腹^{ふく}中^{ちゆう}有^あ熱^{ねつ}也^{なり}不^た能^で正^{ただ}偃^{えん}者^{なり}胃^い中^{ちゆう}不^た和^わ也^{なり}正^{ただ}偃^{えん}則^{すなは}效^{けう}甚^し
 上^{うへ}迫^{はく}肺^{はい}也^{なり}諸^{しよ}有^あ水^{すい}氣^き者^{なり}微^み腫^{しゅ}先^{まづ}見^み於^こ目^め下^{した}也^{なり}帝^{てい}曰^い何^{なん}以^{もつ}言^ふ
 岐伯^{きへく}曰^い水^{すい}者^{なり}陰^{いん}也^{なり}目^め下^{した}亦^{また}陰^{いん}也^{なり}腹^{ふく}者^{なり}至^{いた}陰^{いん}之^の所^{ところ}居^を故^{ゆゑ}水^{すい}在^に
 腹^{ふく}者^{なり}必^{かならず}使^し目^め下^{した}腫^{しゅ}也^{なり}

腎風^{じんふう}
 風水^{ふうすい}
 水^{すい}
 氣^き
 目^め
下^{した}
腫^{しゅ}
腹^{ふく}
中^{ちゆう}
鳴^{めい}
身^み
重^{じゆう}
難^{なん}
以^{もつ}
行^ゆ
月^{げつ}
事^じ
不^た
來^{きた}
煩^{わん}
而^{して}
不^た
能^で
食^く
不^た
能^で
正^{ただ}
偃^{えん}
正^{ただ}
偃^{えん}
則^{すなは}
效^{けう}
病^{びやう}
名^な
曰^い
風^{ふう}
水^{すい}
論^{ろん}
在^に
刺^し
法^{ぽう}
中^{ちゆう}
帝^{てい}
曰^い
願^{ねん}
聞^{もん}
其^{その}
說^{せつ}
岐伯^{きへく}
曰^い
邪^{じゃ}
之^の
所^{ところ}
湊^{あつ}
其^{その}
氣^き
也^{なり}
虛^そ
陰^{いん}
虛^そ
者^{なり}
陽^{やう}
也^{なり}
湊^{あつ}
之^の
故^{ゆゑ}
少^{せう}
氣^き
時^{とき}
熱^{ねつ}
而^{して}
汗^{あせ}
出^で
也^{なり}
小^{せう}
便^{べん}
黃^{わう}
者^{なり}
少^{せう}
腹^{ふく}
中^{ちゆう}
有^あ
熱^{ねつ}
也^{なり}
不^た
能^で
正^{ただ}
偃^{えん}
者^{なり}
胃^い
中^{ちゆう}
不^た
和^わ
也^{なり}
正^{ただ}
偃^{えん}
則^{すなは}
效^{けう}
甚^し
上^{うへ}
迫^{はく}
肺^{はい}
也^{なり}
諸^{しよ}
有^あ
水^{すい}
氣^き
者^{なり}
微^み
腫^{しゅ}
先^{まづ}
見^み
於^こ
目^め
下^{した}
也^{なり}
帝^{てい}
曰^い
何^{なん}
以^{もつ}
言^ふ
岐伯^{きへく}
曰^い
水^{すい}
者^{なり}
陰^{いん}
也^{なり}
目^め
下^{した}
亦^{また}
陰^{いん}
也^{なり}
腹^{ふく}
者^{なり}
至^{いた}
陰^{いん}
之^の
所^{ところ}
居^を
故^{ゆゑ}
水^{すい}
在^に
腹^{ふく}
者^{なり}
必^{かならず}
使^し
目^め
下^{した}
腫^{しゅ}
也^{なり}

精神的不安定に於て

胎脈心
胎中、腎

心腎不交

真氣上逆、口苦舌乾、臥不得正、偃正、偃則欬、出清水也。
 諸水病者、故不得臥、臥則驚、驚則欬甚也、腹中鳴。
 者、病本於胃也、薄脾則煩、不能食、食不下者、胃脘隔也。
 身重難行、者、胃脈左足也、月事不來者、胞脈閉也。
 胞脈者、屬心而絡於胞中、今氣上迫肺、心氣不得下通、
 故月事不來也、帝曰、善。

精氣也。今汗出而輒復熱者、是邪勝也。不能食者、
 精氣傷也。而留者、其毒可立而煩也。且夫熱論曰、
 其氣未衰、狂言者是失志、失志者死。今見三死、不見一生、
 雖愈必死也。